



シリア

37 アル・ザラ火力発電所建設事業

A
B
C
D

アル・ザラ地区に200MW×3基の天然ガス・重油併用焚きの火力発電所を建設することにより、シリア国内の電力供給拡大および国産天然ガスの有効利用・輸出用重油の国内消費削減を図り、もって同国の投資環境改善を通じた経済成長および国際収支の改善に寄与する。

承諾額/実行額	461億9,900万円/422億4,700万円
借款契約調印	1995年12月
借款契約条件	金利2.3~2.7%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイト
貸付完了	2003年1月
実施機関	シリア発電送電公社



外部評価者 宮崎慶司(オーパシス・プロジェクト・マネージメント・コンサルタンツ(株))
現地調査 2004年9月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに3基の天然ガス・重油併用焚きの火力発電所が建設され、期間は計画を若干上回ったが、事業費は計画を下回った。

発電所は2000年6月より商業運転を開始し、03年の運用実績は発電量が3,792GWh/年、施設利用率が70%と計画を達成している。また50%以上の天然ガス利用を計画していたのに対し、02年は66%、03年は46%とほぼ計画を達成している。

03年のシリア全国の発電設備容量7,332MWのうち、本事業の占める割合は約9%で、円借款による他の2事業(ハニアス火力発電所3・4号機およびジャンダール火力発電所建設)を合わせると約26%となる。また、全国の発電量27,487GWh/年に占める本事業の割合は約14%、円借款による他の2事業を合わせると約38%となり、同国電力の安定供給に貢献している。なお、同国の一人あたり電力消費量から想定される受益者数は、本事業

のみで約274万人、3事業合わせた円借款全体では約753万人(埼玉県の人口約706万人)に及ぶ。また本発電所の天然ガス利用により、新たに輸出用に振り向けられた重油販売による外貨獲得額は、01~04年の4年間で約41.5億円と推定され、国際収支改善への効果が認められる。

シリア発電送電公社の体制および財務面に問題はなく、日本政府による無償援助で設けられた国内研修センターで本発電所の運営・管理に関する研修も行われており、技術面も良好である。

第三者意見

本事業は、地域住民700人以上の雇用に貢献し、社会環境を改善しているだけでなく、地域の投資環境改善にも貢献している。

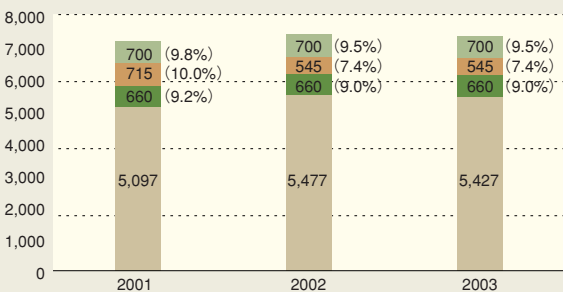
有識者 Mr. El-Ayoubi M. Saleh (学者)

モスクワ電力工科大学博士(原子力発電)。現在、ダマスカス大学機械・電気工科学部助教授。専門は電気機械・電気発電システム、エネルギー等。

円借款3事業の貢献度

発電設備容量

■ アル・ザラ発電所 ■ ハニアス火力発電所 ■ ジャンダール火力発電所 ■ その他

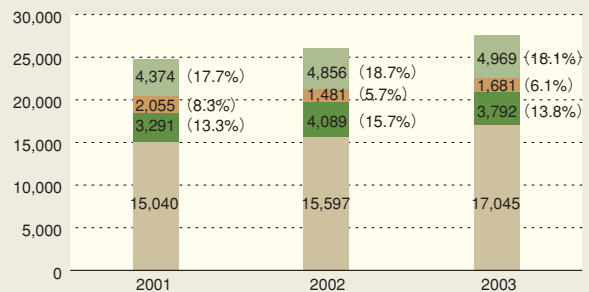


出所:シリア発電送電公社

参考:東京電力大井火力発電所(品川区)の発電設備容量は1,050MW。

発電量

■ アル・ザラ発電所 ■ ハニアス火力発電所 ■ ジャンダール火力発電所 ■ その他



出所:シリア発電送電公社

参考:東京電力大井火力発電所(品川区)の発電量は4,325GWh/年(2003年)。